

# 稲作情報(号外:高温少雨について)

発行日: 令和7年7月23日  
発行: 仙北地域振興局農林部農業振興普及課

本年6月は顕著な高温となり、県内22地点で月平均気温の高い方から1位を更新しました。また、7月以降は降水量が少なく経過していることに加え、今後も高温が続くことが予報されています。

高温により水稻の生育ステージも早まっていることから、高温障害を回避するための水管理や穂肥の実施、斑点米カメムシ類防除の徹底により、品質低下への対策を万全に行いましょう。

## 1. 今後の気象予報と現在の生育状況について

仙台管区気象台の発表では、東北北部は7月19日に梅雨明けしたとみられています(速報値)。また、7月17日に発表された「高温に関する早期天候情報(東北地方)」によると、東北地方は7月23日頃からかなりの高温が予想されています。

今後は、連日、最高気温が30℃以上になる気象予報であることから、高温登熟による白未熟等の発生や斑点米カメムシ類の活動が活発になることが懸念されます。また、発育モデルによるあきたこまちの出穂期の予測では、平年より出穂期が7～8日程度早まる予想です。

【参考】表1 発育モデルによる出穂期予測(あきたこまち、中苗)

| 地点<br>田植え日 | 大曲    |     | 角館    |     | 田沢湖   |     |
|------------|-------|-----|-------|-----|-------|-----|
|            | 予測日   | 平年差 | 予測日   | 平年差 | 予測日   | 平年差 |
| 5月15日      | 7月25日 | 早8日 | 7月26日 | 早8日 | 7月31日 | 早7日 |
| 5月20日      | 7月28日 | 早7日 | 7月29日 | 早7日 | 8月2日  | 早7日 |
| 5月25日      | 7月30日 | 早8日 | 7月31日 | 早7日 | 8月4日  | 早8日 |
| 5月30日      | 8月2日  | 早7日 | 8月3日  | 早7日 | 8月7日  | 早7日 |

※あきたこまち(中苗)における予測。移植日から出穂期までの日平均気温から積算。

※7/21までは各地点のアメダス実測値、それ以降は平年値を用いて試算。

## 2. 高温気象下でも登熟を促す肥培管理と水管理を！

登熟が高温条件下で経過すると白未熟粒やくさび米(黒点症状米)等の被害粒が発生が多くなるため、「**登熟の促進**」と「**品質低下を回避させる**」**肥培管理と水管理が重要**です。

### (1) 高温登熟対策としての追肥(穂肥)

- 減数分裂期の追肥の要否は、幼穂形成期に実施する「栄養診断結果」に基づいて判断します。本年は平年より草丈が長く、生育量が大きいため、栄養診断で「追肥不要」と判断された場合であっても、高温登熟対策として減数分

裂期の葉色が理想生育の下限值(県南:37)を下回るほ場では、減数分裂期に窒素成分で1kg/10a以下の追肥を検討してください。

なお、緩効性肥料による基肥一発施肥体系の場合でも、葉色が急に低下し、下限値を下回ったほ場においては、緊急措置として同様の追肥を検討してください。※栄養診断については稲作情報第7号を参照してください。

- 高温傾向により生育ステージが前進しているため、追肥する場合は減数分裂期の時機を逸することなく実施してください。出穂期に近い追肥は、玄米タンパク質含有率を高め、食味の低下につながるため注意してください。

表2 減数分裂期(7月25日頃)における「あきたこまち」の理想生育量(県南地区:稲作指導指針)

|     | 草丈<br>(cm) | 茎数<br>(本/m <sup>2</sup> ) | 葉数<br>(葉) | 葉緑素計値<br>(SPAD502) | 生育指数<br>(×10 <sup>3</sup> ) | 栄養診断値<br>(×10 <sup>5</sup> ) |
|-----|------------|---------------------------|-----------|--------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 理想値 | 74         | 437                       | 12.3      | 38                 | 32.3                        | 12.3                         |
| 上限値 | 75         | 454                       | 12.5      | 39                 | 33.5                        | 13.0                         |
| 下限値 | 72         | 420                       | 12.1      | 37                 | 30.8                        | 11.7                         |

※減数分裂期:数株からそれぞれ主茎を3本抜き取り50～60%以上の茎の葉耳間長が0cmの日  
(出穂10～15日前頃)

## (2) 高温登熟を回避する水管理の徹底

- 出穂当初は水を多く必要とする時期であり、出穂から開花期間中(出穂後10日間程度)は5～6cm程度の水深で湛水管理とします。その後は2～3cmの浅水で間断かん水とします。
- 最高気温が30℃以上となる場合は、落水期間の短い間断かん水やかん水を日中に行うなど、高温時の水分供給と地温の低下に努めましょう。また、用水の確保が難しく、間断かん水が困難な場合は、溝きり跡への通水等を行い、土壤水分を補充することで夜間の地温低下を図りましょう。
- 地域によっては用水不足が懸念されますので、地域内で調整を行い、節水に努めながら水分の供給と地温の低下を図りましょう。
- フェーン現象等で乾燥した風の強い日は、白穂の発生や籾の登熟停止、枝梗の活力低下を防ぐため、台風が通過してフェーン現象が終息するまでは湛水管理を行います。
- カドミウム汚染米の発生が懸念される地域において、「あきたこまちR」以外の品種を作付けする場合は出穂前後各3週間は常時湛水管理とし、カドミウムの吸収を抑制してください。
- 落水時期が早すぎると根の機能が低下し、茎葉の光合成能も低下して登熟が妨げられるため、腹白、青未熟、死米、胴割米、しいなが多くなることで品質低下につながります。完全に落水する時期は、出穂後30日以降とします。

### 3. 斑点米カメムシ類の密度を下げる草刈り徹底！

7月18日に秋田県病害虫防除所から、斑点米カメムシ類に関する対策情報が発表されました。**イネ科雑草が出穂している畦畔で斑点米カメムシ類の発生が多い**ことから、畦畔などに出穂しているイネ科雑草がある場合は、直ちに草刈り等の除草を実施してください。また、今後の予察情報にも留意してください。

#### 【防除対策について】

- 農道・畦畔、休耕田などで出穂しているイネ科雑草がある場合は、直ちに草刈り等により除草を行ってください。現在、除草が徹底されている場合でも、稲が出穂する15～10日前まで継続して除草を行い、イネ科雑草が出穂しない管理に努めてください。出穂期の予測は表1を参考にしてください。
- 水田畦畔刈り込み代用剤を散布すれば、40～50日の抑草効果が期待できます。

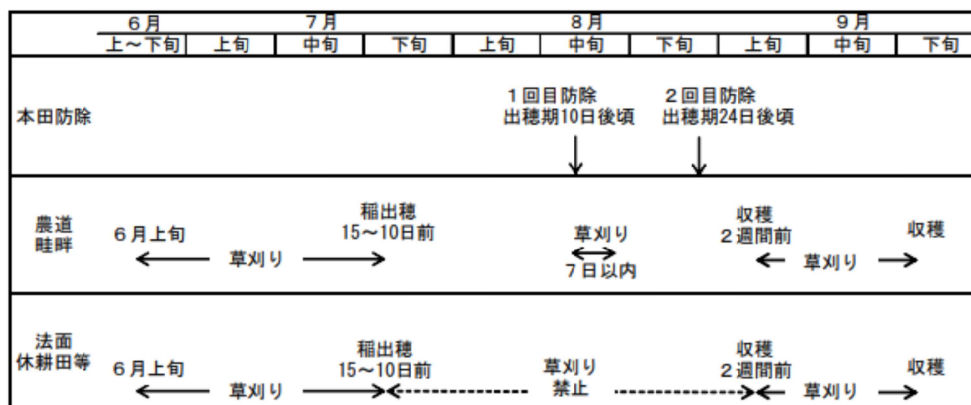


図 本田防除と水田周辺の草刈り時期

### 4. 熱中症に警戒しましょう

農作業中に限らず、熱中症には十分注意しましょう。今後は猛暑日となる所もあるため、熱中症の危険性が高まります。気象庁が発表する熱中症警戒アラート等の気象情報に留意しながら、十分な熱中症対策を講じてください。

- 農作業は日中の気温の高い時間帯を外して行うとともに休憩をこまめにとり、作業時間を短くするなどの工夫をしましょう。特に、気温が高くなりやすいハウス等の施設内での作業は注意しましょう。
- 喉の渇きを感じる前に水分・塩分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給しましょう。
- 農作業の際は単独作業は避けて、できるだけ複数名で作業を行いましょう。
- 時間を決めて連絡をとったり、休憩を取るなどしてお互いの体調を確認しましょう。
- 熱中症が疑われる場合は、速やかに作業を中断し、涼しい場所に避難するなどの応急処置をとってください。症状が改善しない場合は、医療機関を受診しましょう。